

令和 2 年 (2020 年) の災害

広 島 市

(危機管理室)

目 次

第1章	気象概況（広島地方気象台提供）	1
1	令和2年（2020年）の気象の特徴	1
2	月別気象概況	2
3	気象注意報・警報等の発表状況	10
4	梅雨期の状況	11
5	台風の状況	13
第2章	地震（広島地方気象台提供）	15
1	月別・震度別地震回数	15
2	震度1以上を観測した地震の震央分布図	15
3	広島市各地の震度	16
第3章	風水害	17
1	被害発生状況・避難情報	17
2	災害応急組織を編成して対応した災害の概要	18
(1)	7月6日～7月8日 大雨	18
(2)	7月13日～7月14日 大雨	21
(3)	9月6日～9月7日 台風10号	24
第4章	火災（消防局提供）	25
1	火災発生状況	25
2	1日当たり及び1件当たりの火災概況	26
3	火災件数と死者数の推移（過去10年間）	26
第5章	ガス災害（消防局提供）	27
1	ガス事故件数及び死傷者数	27
2	ガス事故発生場所別被害状況	27
3	消費先におけるガス事故発生原因別件数	28
第6章	危険物災害（消防局提供）	29
【参考1】	救急活動（消防局提供）	30
1	事故別出動件数・搬送人員	30
2	1日当たり出動件数・搬送人員	30
3	救急出動件数及び搬送人員の推移（過去10年間）	31
【参考2】	救助活動（消防局提供）	32
	令和2年（2020年）災害のまとめ	33

第1章 気象概況（広島地方気象台提供）

1 令和2年（2020年）の気象の特徴

（1）概況（詳細は「各月の気象概況」や「主な気象災害」を参照）

年を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温は高く、かなり高くなった所が多かった。冬は記録的な暖冬で少雪となり、7月は「令和2年7月豪雨」が発生した影響で、大雨と日照不足となった。また、9月は台風第10号が広島県に接近した。なお、中国地方の梅雨入りは6月10日ごろで平年より遅く、梅雨明けは7月31日ごろで平年よりかなり遅くなった。

- ・1月と2月は、気圧の谷の通過後に冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。寒気の南下は弱く、特に1月の気温は全ての観測所でかなり高くなった。2月6日は広島で初雪を観測した。この冬は寒気の南下が弱く、統計開始（1880年（寒侯年））以来、最も遅い初雪となった。
- ・春（3月～5月）は、高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。3月と5月は暖かい空気に覆われて気温は多数の観測所でかなり高くなった。4月は寒気が流れ込み気温は多数の観測所でかなり低くなり変動が大きかった。4月12日から13日にかけて本州の南岸を低気圧が発達しながら通過した影響で、山地では積雪となった所があった。
- ・夏（6月～8月）は、6月上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。6月中旬から7月は梅雨前線などの影響を受けて曇りや雨の日が多かった。8月は背の高い暖かい高気圧に覆われて晴れた日が多く、連日の猛暑日となった所があった。気温は6月と8月は多数の観測所でかなり高く、降水量は7月は多数の観測所でかなり多く、8月は多数の観測所でかなり少なく、日照時間は7月は全ての観測所でかなり少なくなった。6月中旬から7月にかけて梅雨前線の活動が活発となった影響で、県内各地で大雨となり、土砂災害、浸水害、洪水害の発生した所があった。気象庁では7月3日から7月31日までの豪雨に対して「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。
- ・秋（9月～11月）は、9月は高気圧と気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。10月から11月は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。日照時間は、11月は多数の観測所でかなり多くなった。9月は、台風第10号が九州の西海上を北上し広島県に接近した。
- ・12月は、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となる日が多かった。南部は晴れた日が多く、北部は曇りや雨または雪の日が多かった。冬型の気圧配置が強まり、北部は大雪となった所があった。12月14日は広島で初雪を観測した。

（2）平均気温

年平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、府中、東広島、廿日市津田、広島、生口島、大竹でかなり高く、油木、加計、三入、福山、竹原、呉で高く、世羅で平年並だった。

（3）降水量

年降水量は、広島でかなり多く、高野、三次、庄原、八幡、大朝、油木、加計、甲田、上下、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋で多く、東城、王泊で平年並だった。

（4）日照時間

年間日照時間は、庄原、三入、府中、生口島、呉でかなり多く、高野、三次、加計、世羅、東広島、福山、広島、竹原、大竹で多く、大朝、油木、廿日市津田で平年並だった。

2 月別気象概況

1月：冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。寒気の南下は弱く、気温は全ての観測所でかなり高くなった。

上旬 冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。寒気の南下は弱く、また、7日から8日にかけて日本海を通過した低気圧の影響などを受けて、気温は多数の観測所でかなり高く、日照時間は多数の観測所で多くなった。

中旬 冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。寒気の南下は弱く、気温は全ての観測所で高く、降水量は全ての観測所で少なくなった。

下旬 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。寒気の南下は弱く、気温は全ての観測所でかなり高く、降水量は全ての観測所で多く、日照時間は多数の観測所で少なくなった。

月平均気温は、全ての観測所でかなり高くなった。

月降水量は、志和、福山、竹原、生口島、呉でかなり多く、三次、東城、八幡、油木、加計、甲田、上下、三入、世羅、府中、東広島、廿日市津田、広島、大竹、倉橋で多く、高野、庄原、大朝、王泊で平年並となった。

月間日照時間は、加計、生口島で多く、高野、三次、庄原、大朝、油木、三入、東広島、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で平年並、世羅、府中、福山で少なくなった。

2月：高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。

上旬 短い周期で日本海を低気圧が通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となる日が多く晴れた日が多かった。気温は多数の観測所で高く、降水量は全ての観測所で少なく、日照時間は多数の観測所で多くなった。

中旬 前半は、気圧の谷や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。後半は、冬型の気圧配置となる日が多く南部は晴れた日が多くなったが、北部は曇りや雨または雪となった日が多かった。気温は全ての観測所で高く、降水量は多数の観測所で多くなった。17日から18日にかけて北部は大雪となった所があった。

下旬 高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となる日が多く南部は晴れた日が多くなったが、北部は曇りや雨または雪の日が多かった。気温は全ての観測所で高く、日照時間は多数の観測所で多くなった。

月平均気温は、高野、府中、福山、生口島でかなり高く、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、東広島、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で高くなった。

月降水量は、高野、八幡、大朝、王泊、廿日市津田で多く、三次、庄原、東城、油木、甲田、上下、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、広島、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋で平年並、加計で少なくなった。

月間日照時間は、三入、世羅、生口島でかなり多く、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、東広島、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で多く、府中、福山で平年並となった。

3月：高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。暖かい空気に覆われて気温は多数の観測所でかなり高くなった。

上旬 高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。暖かい空気に覆われて気温は多数の観測所でかなり高くなった。降水量は全ての観測所で多くなった。

中旬 前半は気圧の谷や湿った空気の影響を受けて、曇りや雨または雪となった日が多かった。後半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所で高く、降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は多数の観測所でかなり多くなった。15日から16日にかけて強い冬型の気圧配置となり、北部は積雪となった所があった。19日は、日本海の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込み、南よりの風が強まり中国地方の春一番となった。

下 旬 前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。後半は低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。暖かい空気に覆われて、気温は多数の観測所でかなり高くなった。

月平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉でかなり高く、三入で高くなった。

月降水量は、八幡でかなり多く、高野、庄原、大朝、王泊、加計、三入、世羅、志和、東広島、廿日市津田、広島、大竹で多く、三次、東城、油木、甲田、上下、府中、福山、竹原、生口島、呉、倉橋で平年並となった。

月間日照時間は、高野、庄原、加計、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉で多く、三次、大朝、油木で平年並となった。

4月：高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。中旬の後半から下旬のはじめは低気圧や前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。その他の日は、高気圧に覆われやすく晴れた日が多かった。気温は多数の観測所でかなり低く、日照時間は多数の観測所でかなり多くなった。

上 旬 はじめは低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所で低く、日照時間は全ての観測所でかなり多くなった。

中 旬 はじめと終わりは低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。中頃は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。低気圧や前線の影響を受けて、気温は全ての観測所で低く、降水量は多数の観測所でかなり多く、日照時間は多数の観測所で少なくなった。

下 旬 高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。後半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。寒気の影響を受けて、気温は多数の観測所でかなり低く、低気圧や前線の影響が弱かったため、降水量は全ての観測所でかなり少なく、日照時間は全ての観測所で多くなった。

月平均気温は、竹原、生口島、大竹、呉で低く、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島でかなり低くなった。

月降水量は、八幡、上下、世羅、府中、福山、生口島でかなり多く、高野、三次、庄原、東城、大朝、油木、王泊、甲田、志和、竹原で多く、加計、三入、東広島、広島、大竹、呉、倉橋で平年並、廿日市津田で少なくなった。

月間日照時間は、三次、庄原、三入、世羅、東広島、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉でかなり多く、高野、大朝、油木、加計、府中、福山で多くなった。

5月：高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温は多数の観測所でかなり高くなった。

上 旬 高気圧と低気圧の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。気温は全ての観測所で高くなった。

中 旬 低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、前半を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所で高くなった。

下 旬 低気圧の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。降水量は全ての観測所で少なく、日照時間は多数の観測所で多くなった。

月平均気温は、庄原、大朝、加計、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、生口島、大竹、呉でかなり高く、高野、三次、油木、三入、世羅、竹原で高くなった。

月降水量は、倉橋で多く、東城、世羅、志和、東広島、竹原、生口島、大竹、呉で平年並、高野、三次、庄原、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、三入、府中、福山、廿日市津田、広島で少なく、八幡でかなり少なくなった。

月間日照時間は、生口島でかなり多く、庄原、三入、世羅、府中、福山、竹原、呉で多く、高野、三次、大朝、油木、加計、東広島、廿日市津田、広島、大竹で平年並となった。

6月：上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。中旬は梅雨前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。晴れた日が多く暖かい空気に覆われて、気温は多数の観測所でかなり高くなった。18日から19日にかけて大雨となり、土砂災害などが発生した。

上 旬 前線や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は全ての観測所でかなり高く、降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は多数の観測所で多くなった。

中 旬 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、梅雨前線や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。気温は多数の観測所で高く、降水量は全ての観測所でかなり多く、日照時間は全ての観測所で少なくなった。

下 旬 前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。後半は梅雨前線や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は多数の観測所でかなり多くなった。

月平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、府中、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉でかなり高く、三入、世羅、東広島で高くなった。

月降水量は、内黒山でかなり多く、高野、三次、庄原、東城、八幡、大朝、王泊、加計、甲田、上下、東広島、廿日市津田、広島、大竹で多く、油木、三入、世羅、府中、志和、福山、竹原、生口島、呉、倉橋で平年並となった。

月間日照時間は、庄原でかなり多く、高野、三次、加計、三入、世羅、府中、東広島、廿日市津田、広島、竹原、生口島、呉で多く、大朝、油木、福山、大竹で平年並となった。

7月：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や梅雨前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。降水量は多数の観測所でかなり多く、日照時間は全ての観測所でかなり少なくなった。5日から14日、24日から25日、27日から29日にかけて梅雨前線の活動が活発となった影響で大雨となり、土砂災害、浸水害、洪水害が発生した所があった。道後山、君田、三次、庄原、大朝、王泊、加計、都志見、甲田、内黒山、三入、安宿、佐伯湯来、志和、廿日市津田、広島は、月降水量の多い方からの1位を更新した（観測所名の下線は、年間を通じての1位を更新したことを示す）。

上 旬 低気圧や梅雨前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の天気となった。気温は全ての観測所で低く、降水量は全ての観測所で多く、日照時間は全ての観測所で少なくなった。

中 旬 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や梅雨前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。気温は全ての観測所で低く、降水量は多数の観測所で多く、日照時間は多数の観測所で少なくなった。

下 旬 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や梅雨前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。気温は全ての観測所で低く、降水量は全ての観測所で多く、日照時間は全ての観測所でかなり少なくなった。

月平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、油木、府中、福山、廿日市津田、竹原、生口島、大竹、呉で低く、加計、三入、世羅、東広島、広島でかなり低くなった。

月降水量は、三次、庄原、大朝、油木、王泊、加計、甲田、上下、内黒山、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋でかなり多く、高野、東城、八幡で多くなった。

月間日照時間は、全ての観測所でかなり少なくなった。

8月：気圧の谷や寒気及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所でかなり高く、降水量は多数の観測所でかなり少なくなった。道後山、八幡、大朝、王泊、加計、甲田、内黒山、三入、安宿、佐伯湯来、志和、本郷、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉、呉市蒲刈は、月降水量の少ない方からの1位を更新した（観測所名の下線は、年間を通じての1位を更新したことを示す）。

上 旬 前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、後半は気圧の谷や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は多数の観測所で少なくなった。

中 旬 はじめは湿った空気の影響を受けて曇りや雨の天気となったが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所でかなり高く、降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は全ての観測所でかなり多くなった。

下 旬 高気圧に覆われて晴れた日が多かった。上空の寒気や湿った空気の影響を受けて午後は所により雨や雷雨となった日があった。気温は全ての観測所でかなり高く、降水量は多数の観測所で少なく、日照時間は多数の観測所でかなり多くなった。

月平均気温は、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、大竹、呉でかなり高く、三入、世羅、竹原、生口島で高くなった。

月降水量は、三次、東城、油木、上下で少なく、高野、庄原、八幡、大朝、王泊、加計、甲田、内黒山、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋でかなり少なくなった。

月間日照時間は、高野、庄原、三入、世羅、府中、福山、生口島、呉でかなり多く、三次、大朝、油木、加計、東広島、廿日市津田、広島、竹原、大竹で多くなった。

9月：高気圧と気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。上旬は台風第9号と第10号が相次いで九州の西海上を北上し、このうち台風第10号は広島県に接近した。

上 旬 高気圧と台風第9号や台風第10号及び湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。台風の影響などから、気温は多数の観測所でかなり高くなった。

中 旬 高気圧と前線や湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。降水量は多数の観測所で多く、日照時間は多数の観測所で少なくなった。

下 旬 高気圧と気圧の谷や湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。

月平均気温は、生口島でかなり高く、高野、三次、庄原、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、大竹、呉で高く、大朝、油木、加計、三入、世羅、竹原で平年並となった。

月降水量は、八幡、王泊、加計、内黒山、三入、竹原、呉、倉橋で多く、高野、三次、庄原、東城、大朝、油木、甲田、上下、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、生口島、大竹で平年並となった。

月間日照時間は、三次、庄原、油木、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉で平年並、高野、大朝、加計で少なくなった。

10月：高気圧と気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。中旬から下旬にかけて高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

上 旬 高気圧と気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変わった。気温は多数の観測所で高く、降水量は多数の観測所で少なくなった。

中 旬 気圧の谷や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、前半を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。日照時間は多数の観測所で多くなった。

下 旬 低気圧や前線及び寒気などの影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。降水量は多数の観測所でかなり多く、日照時間は全ての観測所で多かった。

月平均気温は、大竹で高く、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、呉で平年並となった。

月降水量は、三次、東城、甲田、三入、府中、福山、広島、竹原、生口島、呉、倉橋で多く、高野、庄原、大朝、油木、王泊、加計、上下、世羅、志和、東広島、廿日市津田、大竹で平年並、八幡で少なくなった。

月間日照時間は、高野、庄原でかなり多く、三次、大朝、油木、加計、三入、世羅、東広島、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉で多く、府中、福山で平年並となった。

11月：気圧の谷や前線及び寒気などの影響を受けて曇りや雨の日もあったが、中旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。日照時間は多数の観測所でかなり多かった。

上 旬 気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

中 旬 気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は多数の観測所でかなり高く、降水量は多数の観測所でかなり少なく、日照時間は全ての観測所でかなり多くなった。

下 旬 南部は、天気は数日の周期で変わり中頃を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。北部は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や前線及び寒気などの影響を受けて曇りや雨の日が多かった。気温は全ての観測所で高くなった。

月平均気温は、三次、東広島、廿日市津田、広島、生口島、大竹、呉でかなり高く、高野、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、府中、福山、竹原で高くなった。

月降水量は、生口島で多く、福山、竹原で平年並、東城、八幡、油木、甲田、三入、世羅、府中、志和、東広島、廿日市津田、広島、大竹、呉、倉橋で少なく、高野、三次、庄原、大朝、王泊、加計、上下でかなり少なくなった。

月間日照時間は、高野、三次、庄原、油木、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉でかなり多く、大朝、加計で多くなった。

12月：気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となる日が多かった。南部は晴れた日が多くなったが、北部は曇りや雨または雪の日が多かった。14日から17日、30日から31日にかけて冬型の気圧配置が強まり、北部は大雪となった所があった。

上 旬 南部は、気圧の谷や寒気などの影響を受けて曇りや雨の日もあったが、中頃を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。北部は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や寒気などの影響を受けて曇りや雨の日が多かった。降水量は全ての観測所でかなり少なく、日照時間は多数の観測所で多かった。

中 旬 冬型の気圧配置となる日が多く、南部は晴れた日が多くなったが、北部は曇りや雨または雪の日が多かった。14日から17日にかけて北部は大雪となった所があった。気温は全ての観測所で低く、降水量は多数の観測所で少なかった。

下 旬 気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となる日が多く、南部は中頃にかけて晴れた日が多かった。北部は曇りや雨または雪の日が多かった。終わり頃は冬型の気圧配置が強まり、30日から31日にかけて北部は大雪となった所があった。降水量は全ての観測所で多かった。

月平均気温は、生口島で平年並、高野、三次、庄原、大朝、油木、加計、三入、世羅、府中、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、大竹、呉で低くなった。

月降水量は、高野で多く、三次、庄原、東城、油木、加計、甲田、上下、三入、世羅、府中、志和、東広島、福山、廿日市津田、広島、竹原、生口島、大竹、呉、倉橋で平年並、八幡、大朝、王泊で少なくなった。

月間日照時間は、福山、竹原、生口島、大竹でかなり多く、世羅、府中、東広島、広島で多く、三次、庄原、油木、三入、廿日市津田、呉で平年並、高野、大朝、加計で少なくなった。

(注) 気温、降水量、日照時間について、階級区分に沿って「高い」、「低い」などと表します。

2 月別気象概況

[月別気象状況]

(広島地方気象台)

区 分 令和2年	降水量	相対湿度		風 向 ・ 風 速						
	合計	平均	最小	平均	最 大			最大瞬間		
	(mm)	(%)	(%)	(m/s)	(m/s)	風向	起日	(m/s)	風向	起日
1月	87.0	61	24	3.2	12.0	W	8日	20.2	WNW	8日
2月	60.5	58	15	3.3	14.7	WNW	17日	21.8	WNW	17日
3月	169.5	58	12	3.4	11.1	W	19日	19.0	WNW	19日
4月	154.0	50	9	3.9	12.5	WNW	22日	20.9	NNW	13日
5月	130.5	59	13	2.9	11.0	N	6日	16.3	SW	19日
6月	355.0	67	30	2.8	9.2	NNE	19日	14.7	S	30日
7月	768.5	75	40	2.7	10.8	SSE	24日	17.2	S	10日
8月	2.0	62	35	3.1	9.6	SSW	9日	14.3	SW	9日
9月	145.5	62	19	3.9	16.4	SSE	7日	27.2	SSE	7日
10月	90.5	58	21	3.9	10.5	N	10日	14.6	N	10日
11月	25.0	62	23	3.3	11.1	WNW	3日	16.9	S	19日
12月	38.5	60	28	3.2	11.9	W	16日	19.4	W	30日
年	2026.5	61	9	3.3	16.4	SSE	9月7日	27.2	SSE	9月7日

□ : 最大値 (日付は、最大値を記録した日を表す)

○ : 最小値

[年別気象状況]

(広島地方気象台)

区 分	降水量	相対湿度		風 向 ・ 風 速						
	合計	平均	最小	平均	最 大			最大瞬間		
	(mm)	(%)	(%)	(m/s)	(m/s)	風向	起日	(m/s)	風向	起日
平成28年	2124.0	65	13	3.2	13.4	WNW	1月18日	22.2	S	10月5日
平成29年	1619.5	63	9	3.2	15.7	N	9月17日	29.1	N	9月17日
平成30年	1878.5	62	9	3.3	16.6	N	9月30日	26.2	S	10月6日
平成31年・令和元年	1381.5	61	12	3.3	16.6	S	9月23日	27.4	S	9月23日
令和2年	2026.5	61	9	3.3	16.4	SSE	9月7日	27.2	SSE	9月7日

[降水量 観測所別]

広島地方気象台における令和2年（2020年）の年間降水量は、2,026.5ミリ（平年値の132%）でかなり多かった。月別に見ると、7月はかなり多く、1月、3月、6月、10月は多く、2月、4月、9月、12月は平年並、5月、11月は少なく、8月はかなり少なかった。（階級区分に沿って、「多い」、「少ない」などと表します。）

（単位：ミリ）

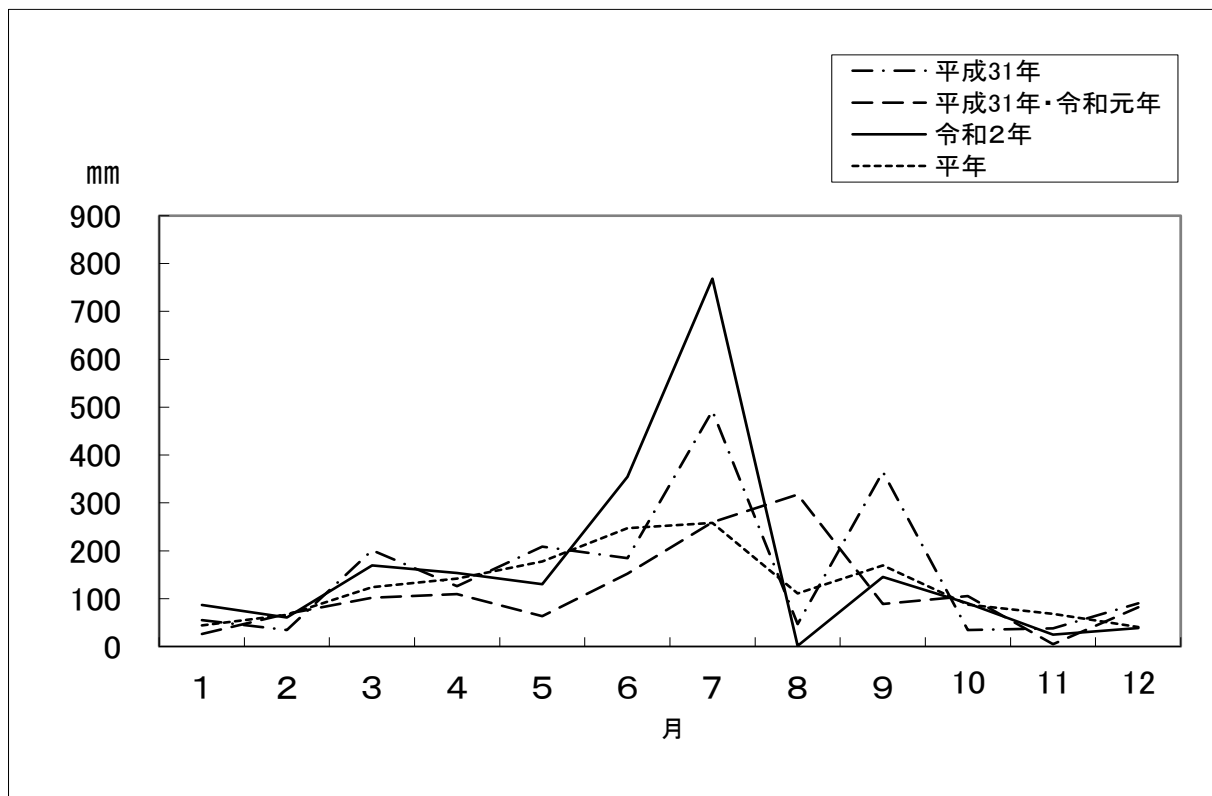
月 別 観測所名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年 間
中消防署	86	58	148	153	119	324	669	2	124	81	22	35	1,821
温品消防出張所	81	26	145	144	118	326	705	3	119	81	24	36	1,808
似島消防出張所	74	50	119	127	129	281	493	12	96	50	19	26	1,476
西消防署	83	55	157	133	125	337	727	5	158	79	24	34	1,917
祇園消防出張所	70	50	143	119	115	322	690	0	169	82	27	35	1,822
上安消防出張所	80	65	180	155	140	321	730	29	175	96	27	47	2,045
安佐南署消防署	77	53	161	146	115	294	689	19	166	83	26	38	1,867
沼田消防出張所	87	71	182	164	134	321	720	70	174	93	25	42	2,083
戸山分団阿戸車庫	84	71	161	133	120	295	635	15	175	92	20	44	1,845
口田分団矢口車庫	76	52	124	139	90	256	738	8	139	33	5	0	1,660
高陽消防出張所	79	58	154	163	120	281	723	7	175	87	30	45	1,922
狩小川分団湯坂車庫	82	60	144	179	114	277	660	31	149	83	34	44	1,857
三入分団桐原車庫	81	55	138	157	129	291	679	4	209	88	29	44	1,904
三田分団畑車庫	46	47	114	132	102	242	623	2	154	71	21	29	1,583
志屋分団梶名車庫	71	60	144	168	112	265	607	1	181	91	36	43	1,779
大林分団大杉車庫	70	56	139	168	117	290	649	4	207	85	29	50	1,864
亀山分団大畑車庫	77	69	153	162	129	304	723	31	187	97	31	58	2,021
亀山分団亀山車庫	73	58	148	137	129	297	751	25	192	90	25	45	1,970
亀山分団亀山西車庫	72	61	145	126	134	276	720	20	156	90	27	47	1,874
久地分団久地車庫	78	65	158	137	116	305	709	46	180	93	21	53	1,961
小河内分団堂原河内車庫	71	55	132	111	104	272	541	34	235	81	17	49	1,702
安佐消防出張所	82	67	164	141	126	305	665	68	211	88	22	63	2,002
鈴張分団鈴張西車庫	89	73	159	163	119	309	654	93	178	82	24	61	2,004
安芸区役所	82	54	105	109	119	259	557	1	95	71	23	33	1,508
安芸区中野出張所	92	56	130	158	122	270	598	1	121	76	25	39	1,688
瀬野分団中原車庫	91	58	127	156	130	276	601	4	133	81	28	41	1,726
安芸区阿戸出張所	93	58	133	168	127	298	550	1	123	81	29	37	1,698
安芸区矢野出張所	83	51	105	119	112	238	450	0	94	73	25	34	1,384
佐伯消防署	93	66	173	142	120	346	695	32	143	84	14	0	1,908
水内分団堂原車庫	119	88	188	147	123	318	610	15	213	98	19	73	2,011
上水内分団多田車庫	131	116	219	160	131	355	690	17	227	88	26	54	2,214
広島地方気象台 (中区上八丁堀)	87.0	60.5	169.5	154.0	130.5	355.0	768.5	2.0	145.5	90.5	25.0	38.5	2,026.5
広島地方気象台 平年値	44.6	66.6	123.9	141.7	177.6	247.0	258.6	110.8	169.5	87.9	68.2	41.2	1,537.6

注1：広島地方気象台（中区上八丁堀）の平年値は、統計期間1981年～2010年の値である。

注2：上覧の×は、計器故障のため、不明を意味する。（該当なし）

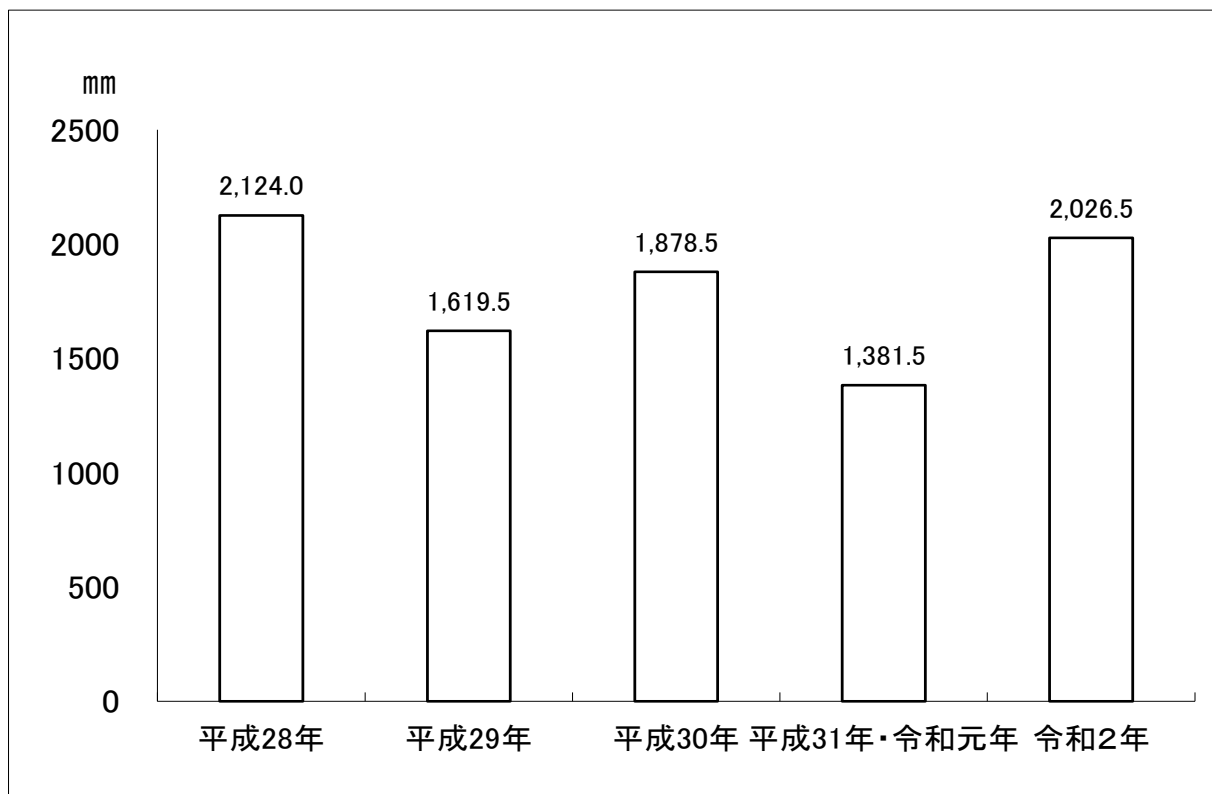
[月別降水量]

広島地方気象台



[年別降水量]

広島地方気象台



3 気象注意報・警報等の発表状況

令和2年（2020）年中に、広島地方気象台から広島市に対して発表された気象に関する特別警報・警報・注意報等、及び広島市から発表された火災警報は、下表のとおりである。

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
種 類														
特別警報	暴風雪特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	大雨特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	暴風特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	大雪特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	波浪特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	高潮特別警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
警報	暴風雪警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	大雨警報	-	-	-	-	-	2	7	-	2	-	-	-	11
	洪水警報	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4
	暴風警報	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	大雪警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	波浪警報	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	高潮警報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	合 計	0	0	0	0	0	2	11	0	4	0	0	0	17
注意報	大雨注意報	-	-	1	-	-	7	12	3	5	-	-	-	28
	大雪注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	風雪注意報	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
	雷注意報	3	2	4	6	3	9	13	13	5	1	1	-	60
	強風注意報	2	2	2	4	1	2	-	1	3	1	1	4	23
	波浪注意報	2	2	2	4	1	2	-	1	3	1	1	4	23
	洪水注意報	-	-	-	-	-	4	11	3	3	-	-	-	21
	高潮注意報	-	1	1	1	1	4	4	5	5	4	2	-	28
	濃霧注意報	4	1	2	-	2	1	-	-	-	-	-	1	11
	乾燥注意報	8	4	8	5	4	5	-	1	4	6	5	5	55
	なだれ注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	低温注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	霜注意報	-	-	8	5	-	-	-	-	-	-	-	-	13
	着雪注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	着氷注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	融雪注意報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	合 計	19	13	29	25	12	34	40	27	28	13	10	17	267
広島県気象情報	一般気象情報	4	7	6	3	3	31	62	7	15	-	-	17	155
	台風情報	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	9
	天候情報	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	3
	潮位情報	-	1	-	-	1	1	3	2	1	3	1	-	13
	黄砂情報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	竜巻注意情報	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
	高温注意情報	-	-	-	-	-	-	-	24	5	-	-	-	29
	スモッグ気象情報	-	-	-	-	-	3	-	12	-	-	-	-	15
	記録的短時間大雨情報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	合 計	4	8	6	3	4	35	66	51	30	3	1	17	228
火 災 警 報														0

注1：注意報は発表してから解除まで、または警報に切り替えるまでを1回としている。
 また同様に、警報は発表してから解除、または注意報に切り替えるまでを1回として計上した。
 特別警報警報も発表してから解除、または警報・注意報に切り替えるまでを1回として計上した。

注2：一般気象情報とは、大雨・大雪・強風（暴風）・突風・高波・雷・降ひょうなどの気象情報である。
 天候情報とは、高温・低温・日照不足・少雨などの気象情報である。

4 梅雨時期の状況

6月上旬と下旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。6月中旬と7月は、梅雨前線などの影響を受けて曇りや雨の日が多かった。特に7月上旬から中旬は、活発な梅雨前線の影響で県内各地で大雨となり、土砂災害、浸水害、洪水害の発生した所があった。気象庁では、7月3日から7月31日までの豪雨に対して「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。また、7月は記録的な日照不足となった。中国地方は、6月10日ごろに平年より遅い梅雨入り（平年より3日遅く、昨年より16日早い）となり、7月31日ごろに平年よりかなり遅い梅雨明け（平年より10日遅く、昨年より6日遅い）となった。

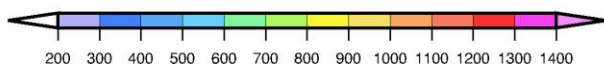
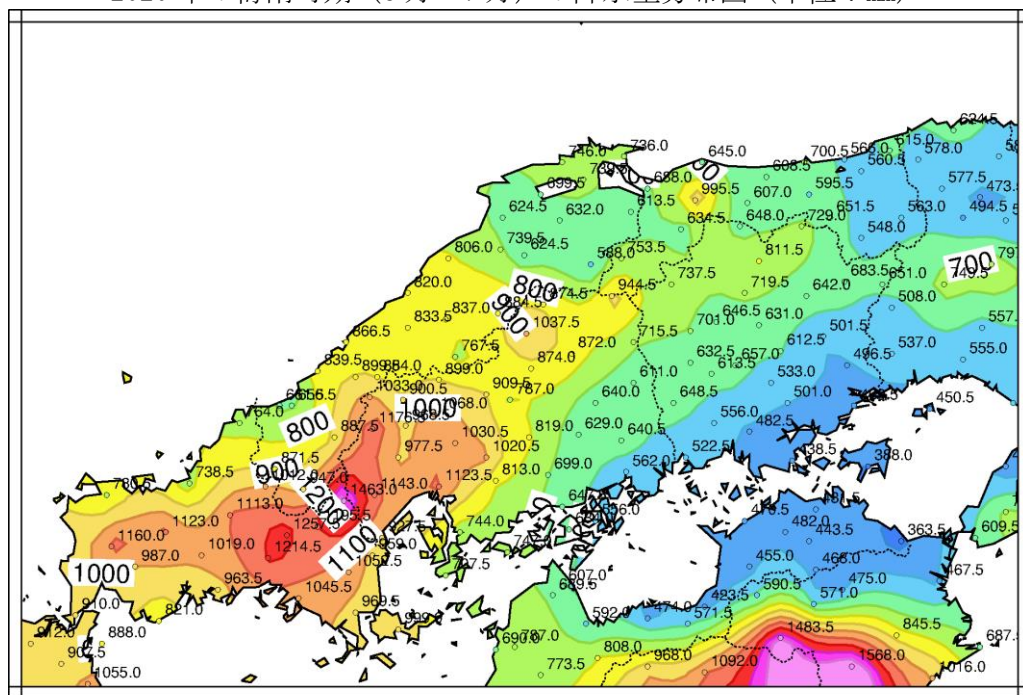
【梅雨入り】：6月10日ごろ「遅い」

- ・平年(6月7日ごろ)より3日遅い
- ・昨年(6月26日ごろ)より16日早い

【梅雨明け】：7月31日ごろ「かなり遅い」

- ・平年(7月21日ごろ)より10日遅い
- ・昨年(7月25日ごろ)より6日遅い

2020年の梅雨時期（6月～7月）の降水量分布図（単位：mm）



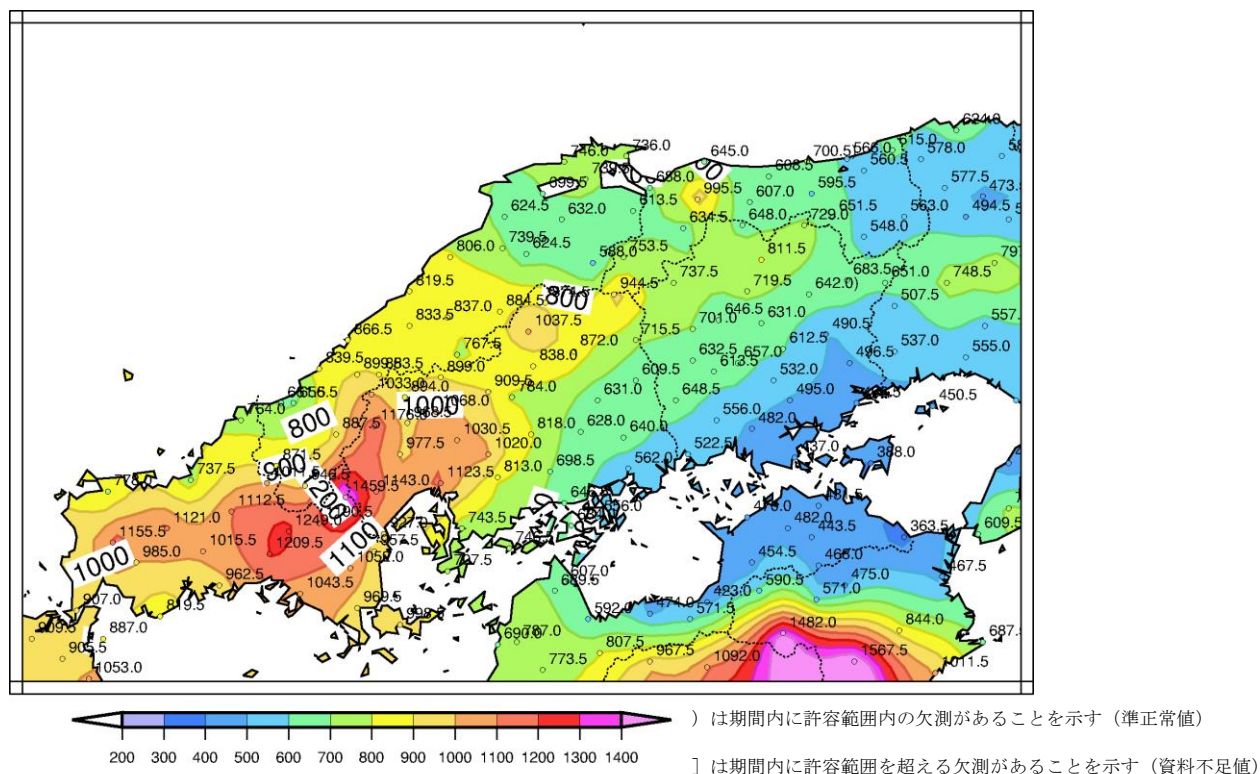
〕は期間内に許容範囲内の欠測があることを示す（準正常値）

〕は期間内に許容範囲を超える欠測があることを示す（資料不足値）

2020年の梅雨時期（6月～7月）の降水量と平年比

地点名	観測値（mm）	平年値（mm）	平年比（％）
広島	1,123.5	505.6	222
呉	743.5	454.4	164
福山	562.0	352.0	160

2020 年の梅雨入り（6/10）から梅雨明けの前日（7/30）までの降水量分布図
（単位：mm）



2020 年の梅雨入り（6/10）から梅雨明けの前日（7/30）までの
広島県内各地の降水量

地点名	観測値（mm）	地点名	観測値（mm）	地点名	観測値（mm）
広島	1,123.5	呉	743.5	福山	562.0
高野	874.5	王泊	894.0	佐伯湯来	977.5
道後山	944.5	加計	968.5	志和	1,020.0
君田	1,037.5	都志見	1,068.0	東広島	813.0
三次	838.0	甲田	784.0	本郷	698.5
庄原	872.0	上下	631.0	廿日市津田	1,143.0
東城	715.5	内黒山	1,176.0	竹原	646.5
八幡	1,033.0	三入	1,030.5	生口島	556.0
大朝	899.0	安宿	818.0	大竹	927.0
美土里	909.5	世羅	628.0	倉橋	707.5
油木	609.5	府中	640.0	呉市蒲刈	746.5

5 台風の状況

(1) 台風の特徴

台風の発生数は、平年より少ない23個（平年25.6個）、日本への接近数は7個（平年11.4個）、年間上陸数は0個（平年2.7個）だった。

中国地方（山口県を除く）への接近（鳥取県、島根県、岡山県、広島県のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合）は、台風第5号、台風第10号の2個（平年2.6個）だった。

8月9日03時に沖縄の南で発生した台風第5号は、九州の西海上から対馬海峡を通り日本海を北東進し、11日15時に日本海北部で温帯低気圧に変わった。

8月31日21時に小笠原諸島近海で発生した台風第10号は、九州の西海上から対馬海峡、朝鮮半島東岸、日本海西部を北進し、8日03時に中国東北区で温帯低気圧に変わった。

(2) 台風の発生数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2020 年					1	1		8	3	7	2	1	23
平年値 (1981～2010 年)	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

(3) 台風の上陸数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2020 年													0
平年値 (1981～2010 年)					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7

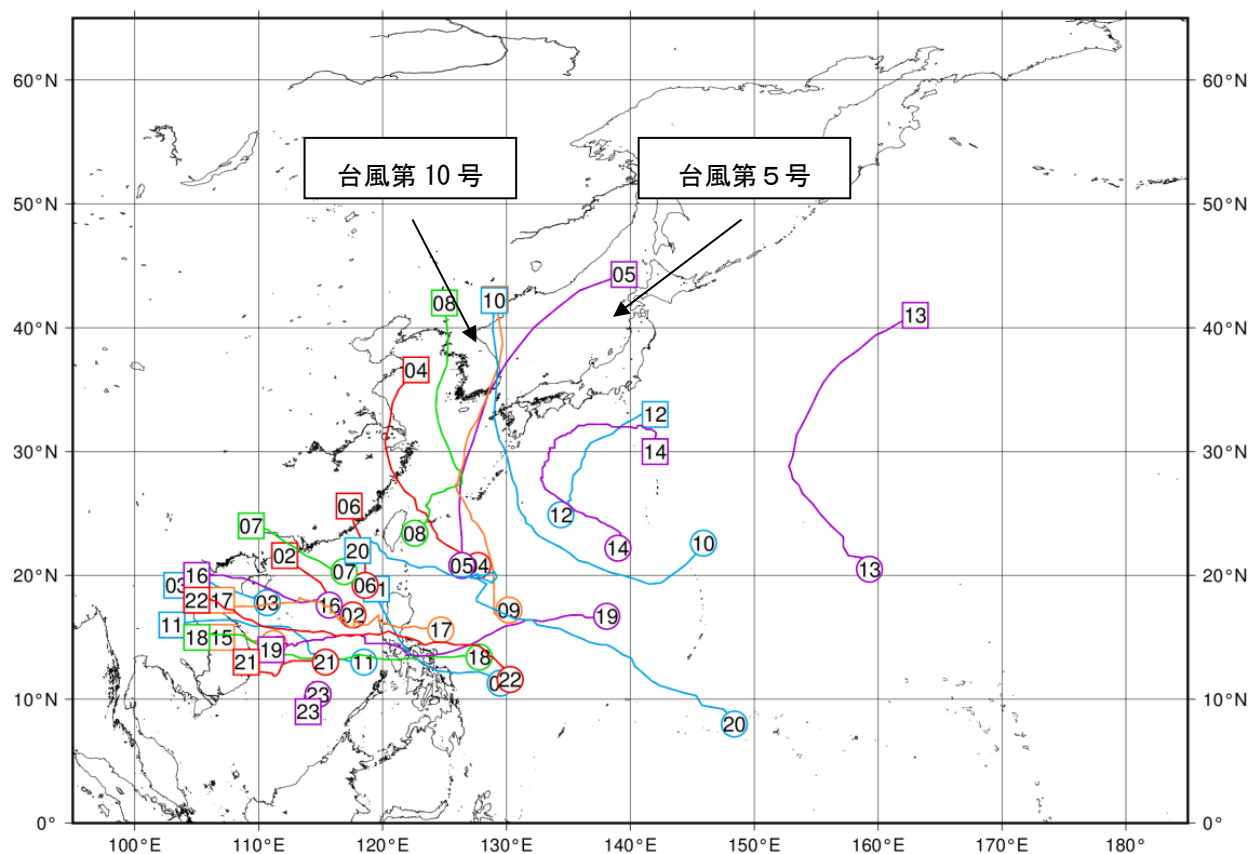
注：台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「日本に上陸した台風」としている。

(4) 中国地方（山口県を除く）への接近数

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2020 年								1	1				2
平年値 (1981～2010 年)					0.0	0.3	0.5	0.8	0.9	0.2	0.0		2.6

注：台風の中心が鳥取県、島根県、岡山県、広島県のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「中国地方（山口県を除く）に接近した台風」としている。

(5) 台風経路図



経路の両端の○は台風の発生位置、□は台風の消滅位置、数字は台風番号を示す。

※ 台風第11号～第23号は速報値。

本資料は、令和2年12月22日 報道発表「2020年（令和2年）の天候と台風のまとめ（速報）」資料によるものです。

第2章 地震（広島地方気象台提供）

1 月別・震度別地震回数

令和2年（2020年）、広島市内で震度1以上を観測した地震は、5回（前年19回）でした。

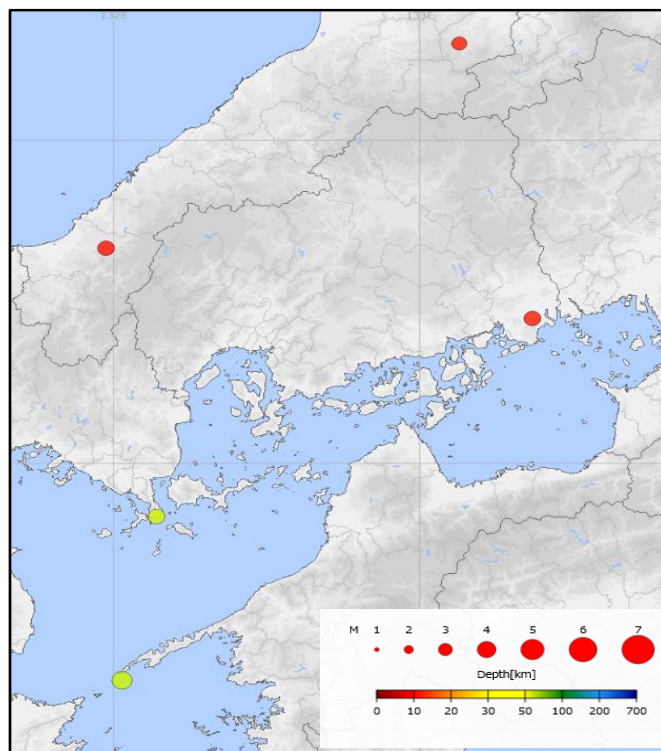
月別の震度1以上を観測した地震は3月が3回と最も多くなりました。期間中、震度2以上は観測されませんでした。

2020年 広島市内で震度1以上を観測した地震回数表（最大震度別）

月 最大震度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5強	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6強	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5

2 震度1以上を観測した地震の震央分布図

下図は、令和2年（2020年）に広島市内で震度1以上を観測した地震の震央分布図です。それぞれの○印は震央を表し、○印の大きさで地震の規模（M：マグニチュード）を、色で震源の深さを表しています。



気象庁HPの震度データベースから作成

3 広島市各地の震度

注) 震度の地点名に*印を付したものは、広島県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

通年番号	発震時刻 (年月日時分)	震央地名	緯度	経度	深さ	地震の規模 : M	(マグニチュード)
No1	2020 年 03 月 09 日 04 時 28 分	豊後水道	33° 19.3' N	132° 01.7' E	59km	M4.7	
震度 1: 広島中区上八丁堀, 広島中区羽衣町*, 広島南区宇品海岸*, 広島西区己斐*, 広島安佐南区祇園*, 広島安佐北区可部南*, 広島佐伯区利松*							
No2	2020 年 03 月 13 日 17 時 32 分	島根県西部	34° 40.0' N	131° 58.5' E	11km	M3.8	
震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島佐伯区利松*							
No3	2020 年 03 月 18 日 09 時 44 分	島根県東部	35° 17.9' N	133° 07.8' E	12km	M3.5	
震度 1: 広島安佐北区可部南*							
No4	2020 年 04 月 03 日 14 時 30 分	広島県南東部	34° 27.1' N	133° 22.1' E	12km	M4.1	
震度 1: 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島佐伯区利松*							
No5	2020 年 05 月 11 日 02 時 23 分	山口県東部	33° 50.1' N	132° 08.5' E	57km	M3.9	
震度 1: 広島中区羽衣町*, 広島西区己斐*, 広島安佐北区可部南*, 広島佐伯区利松*							

第3章 風 水 害

1 被害発生状況・避難情報

区 分				総 数	大雨 (7月6日～8日)	大雨 (7月13日～14日)	台風第10号 (9月9日～7日)	
災害種別								
人	死者・行方不明者		人	-	-	-	-	
	負 傷 者		〃	3	1	1	1	
住家	全 壊		棟	-	-	-	-	
	半 壊		〃	-	-	-	-	
	一 部 破 損		〃	-	-	-	-	
	床 上 浸 水		〃	-	-	-	-	
	床 下 浸 水		〃	2	-	2	-	
非 住 家			〃	-	-	-	-	
公 共 建 物			〃	6	-	3	3	
公共土木施設	道路・ 橋梁	流 失 箇所	18	7	2	-		
		損 壊		2	3	-		
		冠 水		-	-	-		
		土砂流入		-	4	-		
	河川・ 堤防・ 護岸	決 壊	5	-	-	-		
		欠け崩れ		3	2	-		
		越水・溢水		-	-	-		
		そ の 他		-	-	-		
	そ の 他		〃	7	1	4	2	
	農地・ 農林・ 水産	田・ 畑	流 失	-	-	-	-	
埋 没			-		-	-		
冠 水			-		-	-		
そ の 他		〃	-	-	-	-		
山崖 崩れ	山・がけ崩れ(自然)		27	20	7	-		
	がけ崩れ(人工)		-	-	-	-		
そ の 他			〃	-	-	-	-	
避 難			開設施設	188	128	58	2	
			人員	1, 297	注1)	1, 044	251	2
土砂	避難準備		学区数	90	}	84	6	-
	避難勧告		〃	62		25	37	-
	避難指示		〃	58		注2)	48	10
洪水	避難準備		〃	23	}	4	19	-
	避難勧告		〃	8		-	8	-
	避難指示		〃	-		-	-	-

注1) 避難人員については、各避難場所の最大避難者数を加算したものである。

注2) 学区数については、発令回数を加算したものである。

2 災害応急組織を編成して対応した災害の概要

(1) 7月6日～7月8日 大雨

ア 気象状況等及び本市の体制

【7月6日（月）】

時 間	気象状況等	本市の体制
1 時 19 分	大雨・洪水注意報 発表	広島市及び各区注意体制 設置
2 時 46 分	大雨警報 発表	広島市及び各区警戒体制 設置
8 時 49 分	大雨警報基準超過（暫定地域：15I）	広島市及び東区、安芸区災害警戒本部 設置
10 時 16 分	大雨警報基準超過（暫定地域：12K）	安佐北区災害警戒本部 設置
13 時 49 分	大雨警報基準超過（暫定地域：16H）	南区災害警戒本部 設置
14 時 16 分	3 時間後に土砂災害警戒情報基準値超過（15H）	西区、安佐南区災害警戒本部 設置
15 時 25 分	土砂災害警戒情報 発表	—
15 時 27 分	2 時間後に土砂災害警戒情報基準値超過（15G、15H、15I、16F、16G）	広島市及び中区、東区、西区、安佐南区、安佐北区、安芸区、佐伯区災害対策本部 設置
15 時 37 分	洪水警報 発表	—
22 時 23 分	洪水注意報 発表、洪水警報 解除	—

【7月7日（火）】

時 間	気象状況等	本市の体制
5 時 50 分	土砂災害警戒情報 解除	—
14 時 50 分	土砂災害警戒情報 発表	—
22 時 13 分	洪水警報 発表	—

【7月8日（水）】

時 間	気象状況等	本市の体制
4 時 00 分	土砂災害警戒情報 解除	—
4 時 15 分	洪水注意報 発表、洪水警報 解除	—
7 時 38 分	大雨注意報 発表、大雨警報 解除	—
8 時 47 分	（洪水注意報 継続） （大雨注意報 継続）	広島市及び中区、東区、西区、安佐南区、安佐北区、安芸区、佐伯区災害対策本部 廃止 南区災害警戒本部 廃止 広島市及び各区注意体制 設置

イ 避難情報の発令状況

【7月6日（月）】

時 間	区	情報種別	原因	対象区域（小学校区名）	解除時間
16 時 36 分	中区	避難指示	土砂	舟入、江波	8 日 7 時 50 分
16 時 53 分	東区	避難準備	洪水	温品、上温品	8 日 7 時 45 分
17 時 54 分	安佐北区	避難準備	洪水	可部（大野、中河内、姫瀬を除く）、可部南	7 日 8 時 06 分

時 間	区	情報種別	原因	対象区域（小学校区名）	解除時間
18 時 00 分	南区	避難準備	土砂	段原、皆実、大河、黄金山、仁保、元宇品、青崎、向洋新町、似島、金輪島地区	7 日 7 時 23 分
18 時 00 分	安芸区	避難準備	土砂	中野東、みどり坂、阿戸、船越、矢野西、矢野南、寺屋敷	7 日 8 時 17 分
18 時 06 分	佐伯区	避難準備	土砂	湯来東、湯来西、湯来南、河内、藤の木、彩が丘	7 日 7 時 49 分
18 時 10 分	安佐北区	避難準備	土砂	志屋、高南、三田、大林、三入、三入東、可部、亀山、亀山南、鈴張、飯室、久地南、井原（三篠川から以東（神ノ倉山側）の中東地区、沼地区を除く）	7 日 8 時 15 分
18 時 21 分	安佐南区	避難準備	土砂	戸山	7 日 7 時 21 分

【7 月 7 日（火）】

時 間	区	情報種別	原因	対象区域（小学校区名）	解除時間
17 時 59 分	南区	避難準備	土砂	段原、皆実、大河、黄金山、仁保、元宇品、青崎、向洋新町、似島、金輪島地区	8 日 5 時 30 分
18 時 00 分	安芸区	避難準備	土砂	中野東、みどり坂、阿戸、船越、矢野西、矢野南、寺屋敷	8 日 7 時 00 分
18 時 02 分	安佐南区	避難準備	土砂	戸山	8 日 5 時 54 分
18 時 03 分	佐伯区	避難準備	土砂	湯来東、湯来西、湯来南、河内、藤の木、彩が丘	8 日 7 時 00 分
18 時 12 分	安佐北区	避難準備	土砂	志屋、高南、三田、大林、三入、三入東、可部、亀山、亀山南、鈴張、飯室、久地南、井原（三篠川から以東（神ノ倉山側）の中東地区、沼地区を除く）	8 日 7 時 10 分
19 時 00 分	東区	避難指示	土砂	福木、温品、上温品、戸坂、戸坂城山、東浄、牛田新町、牛田、早稲田、中山、尾長、矢賀、白島（東区）	8 日 7 時 33 分
19 時 00 分	南区	避難準備	土砂	楠那、段原、皆実、大河、黄金山、仁保、元宇品、青崎、向洋新町、似島、金輪島地区	8 日 7 時 41 分 (楠那以外は 5 時 30 分に解除済)
19 時 00 分	安芸区	避難指示	土砂	畑賀、中野、瀬野、矢野	8 日 8 時 10 分
19 時 00 分	佐伯区	避難勧告	土砂	八幡、五日市観音西、五日市観音、五日市、楽々園	8 日 7 時 41 分
19 時 00 分	佐伯区	避難指示	土砂	五月が丘、石内、八幡東、美鈴が丘、五日市東、五日市南、石内北	8 日 7 時 41 分

時 間	区	情報種別	原因	対象区域（小学校区名）	解除時間
19 時 05 分	西区	避難指示	土砂	大芝、三篠、己斐、己斐上、己斐東、山田、古田台、古田、高須、草津、鈴が峰、井口、井口台	8 日 7 時 48 分
19 時 16 分	安佐北区	避難指示	土砂	落合、口田	8 日 7 時 48 分
19 時 21 分	安佐北区	避難勧告	土砂	狩小川、深川、亀崎、倉掛、真亀、落合東、可部南、口田東、筒瀬、日浦	8 日 7 時 53 分
20 時 24 分	安佐南区	避難指示	土砂	祇園、山本、春日野、長東西、伴東、伴、伴南、大塚	8 日 7 時 45 分
20 時 24 分	安佐南区	避難勧告	土砂	梅林、八木、緑井、大町、毘沙門台、安東、安、上安、安北、安西	8 日 7 時 45 分
22 時 30 分	—	注意喚起	土砂	全市	—

ウ 動員の状況（最大動員時の人数）

区 分	総 員	各局・区職員	消防職員
災害対策本部	2,580	1,354	1,226

エ 最大避難状況

区 分	総 数	中 区	東 区	南 区	西 区	安佐南区	安佐北区	安 芸 区	佐 伯 区
最大開設施設数	128	2	14	11	14	21	33	14	19
最大避難者数	1,044	4	189	21	111	148	164	272	135

オ 被害状況等

区 分		総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
人	死者・行方不明者	人								
	負 傷 者	〃	1	1						
住 家	全 壊	棟								
	半 壊	〃								
	一 部 破 損	〃								
	床 上 浸 水	〃								
	床 下 浸 水	〃								
非 住 家		〃								
公共建物等		—	33	7		7	6	7	3	3

カ その他（土砂災害を未然に防いだ事例）

平成2年7月6日の大雨により発生した土石流を、国土交通省中国地方整備局（広島西部山系砂防事務所）が整備した井口台4号砂防堰堤で捕捉（約1,200 m³）し、下流の住宅地の被害を未然に防止することができた。

なお、この土石流の撤去は同年8月20日に完了し、今後の土砂災害に備えている。

〔参 考〕

発生箇所 広島市西区井口台三丁目

砂防堰堤の規模 延長 L=46.0m、提高 H=9.0m

同対象溪流の土砂災害の警戒区域内の人家戸数 772 戸

累加雨量 231mm（7月5日22時～7日4時）、時間最大雨量 27 mm（7月6日16時～17時）

(2) 7月13日～7月14日 大雨

ア 気象状況等及び本市の体制

【7月13日（月）】

時 間	気象状況等	本市の体制
6 時 56 分	大雨注意報	広島市及び各区注意体制 設置
17 時 45 分	大雨警報（土砂災害） 発表	広島市及び各区警戒体制 設置
18 時 41 分	大雨警報（浸水害） 発表	—
19 時 41 分	洪水注意報 発表	—
19 時 59 分	大雨警報基準超過（暫定地域：12K）	広島市及び安佐北区災害警戒本部 設置
21 時 37 分	大雨警報基準超過（暫定地域：15I）	東区、安芸区災害警戒本部 設置

【7月14日（火）】

時 間	気象状況等	本市の体制
0 時 11 分	洪水警報 発表	—
1 時 41 分	1 時間後に土砂災害警戒情報基準値超過（12G、12H、12I、12J、13E、13G、13H、15E） 2 時間後に土砂災害警戒情報基準値超過（12K）	広島市及び安佐南区、安佐北区、佐伯区 災害対策本部 設置
1 時 45 分	土砂災害警戒情報 発表	—
1 時 50 分	大雨警報基準超過（暫定地域：16H）	南区災害警戒本部 設置
4 時 07 分	1 時間後に土砂災害警戒情報基準値超過（15I）	東区、安芸区災害対策本部 設置
8 時 14 分	大雨警報（浸水害） 解除	—
14 時 27 分		南区災害警戒本部 廃止
17 時 09 分		広島市及び東区、安佐南区、安佐北区、安芸区、佐伯区災害対策本部 廃止

イ 避難情報の発令状況

【7月13日（月）】

時 間	区	情報種別	原因	対象区域（小学校区名）	解除時間
19 時 59 分	安佐北区	避難準備	土砂	井原（三篠川から以東（神ノ倉山側）の中東地区、沼地区）	14 日 3 時 36 分
21 時 37 分	安芸区	避難準備	土砂	畑賀	14 日 4 時 28 分
21 時 38 分	東区	避難準備	土砂	福木（福田一丁目の上条地区、馬木三丁目、四丁目、七丁目及び八丁目の大谷川の新直助橋から上流の護岸沿いの区域）	14 日 4 時 34 分

【7月14日（火）】

時 間	区	避難情報	原因	対象区域	解除時間
1 時 41 分	佐伯区	避難勧告	土砂	湯来東、湯来西、湯来南、河内	14 日 15 時 00 分
1 時 42 分	安佐南区	避難勧告	土砂	八木、戸山	14 日 15 時 05 分

1 時 44 分	安芸区	避難準備	土砂	矢野	14 日 15 時 32 分
1 時 50 分	南区	避難準備	土砂	楠那	14 日 14 時 28 分
2 時 00 分	安佐北区	避難勧告	土砂	井原、志屋、高南、大林、三入、可部、 亀山、亀山南、鈴張、飯室、久地南、 筒瀬、日浦	14 日 16 時 20 分
2 時 16 分	佐伯区	避難勧告	土砂	石内、藤の木、彩が丘、八幡東、八幡、 五日市観音西、石内北	14 日 15 時 00 分
2 時 16 分	安佐北区	避難準備	土砂	三田	14 日 16 時 20 分
2 時 19 分	安佐南区	避難勧告	土砂	伴南、伴	14 日 15 時 05 分
2 時 33 分	安佐北区	避難準備	洪水	鈴張、飯室	14 日 16 時 48 分
3 時 19 分	安佐北区	避難勧告	土砂	狩小川、深川、三入東、可部南	14 日 17 時 00 分
3 時 21 分	安佐北区	避難指示	土砂	三入、可部、亀山、鈴張、飯室	14 日 16 時 04 分
3 時 20 分	安佐北区	避難準備	洪水	可部、可部南	14 日 16 時 48 分
3 時 36 分	安佐北区	避難準備	洪水	井原、高南、三田、狩小川	14 日 16 時 20 分
3 時 39 分	安佐北区	避難指示	土砂	大林	14 日 16 時 04 分
4 時 03 分	安佐北区	避難勧告	土砂	落合、口田、三田	14 日 16 時 13 分
4 時 07 分	安芸区	避難勧告	土砂	瀬野、中野、畑賀	14 日 15 時 32 分
4 時 09 分	安佐北区	避難勧告	洪水	井原、高南、三田、狩小川	14 日 16 時 20 分
4 時 15 分	東区	避難勧告	土砂	福木、温品、上温品、戸坂、東浄、中 山、矢賀	14 日 14 時 58 分
4 時 28 分	安芸区	避難指示	土砂	畑賀	14 日 15 時 32 分
4 時 34 分	東区	避難指示	土砂	福木(福田一丁目の上条地区、馬木三 丁目、四丁目、七丁目及び八丁目の大 谷川の新直助橋から上流の護岸沿い の区域)	14 日 時 分
4 時 36 分	安佐北区	避難指示	土砂	井原(三篠川から以東(神ノ倉山側) の中東地区、沼地区)	14 日 16 時 20 分
4 時 49 分	安芸区	避難準備	洪水	中野、船越、矢野、矢野西	14 日 15 時 32 分
5 時 02 分	安芸区	避難準備	洪水	温品、上温品	14 日 14 時 58 分
5 時 16 分	安佐北区	避難準備	洪水	亀山南(柳瀬地区)	14 日 16 時 48 分
5 時 34 分	安佐北区	避難指示	土砂	井原、志屋、高南	14 日 17 時 09 分
5 時 51 分	安佐北区	避難準備	洪水	狩小川、深川	14 日 17 時 09 分
6 時 02 分	安芸区	避難準備	洪水	瀬野	14 日 17 時 09 分
6 時 33 分	安佐北区	避難準備	洪水	井原	14 日 17 時 09 分
7 時 01 分	安佐北区	避難勧告	洪水	狩小川、深川	14 日 17 時 09 分

ウ 動員の状況（最大動員時の人数）

区 分	総 員	各局・区職員	消防職員
災害対策本部	1,803	666	1,137

※ 1 中区及び西区は警戒体制

※ 2 南区は災害警戒本部

エ 最大避難状況

区 分	総 数	中 区	東 区	南 区	西 区	安佐南区	安佐北区	安 芸 区	佐 伯 区
最大開設施設数	58	-	7	1	-	6	24	9	11
最大避難者数	251	-	1	0	-	18	162	27	43

オ 被害状況等

区 分			総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
人	死者・行方不明者	人									
	負 傷 者	人	1				1				
住 家	全 壊	棟									
	半 壊	棟									
	一 部 破 損	棟									
	床 上 浸 水	棟									
	床 下 浸 水	棟	2						2		
非 住 家		棟									
公共建物等		棟	25		1			2	10	10	2

※ 公共建物等については、道路等の市有施設の被害を掲載している。

(3) 9月6日～9月7日 台風10号

ア 気象状況等及び本市の体制

【9月6日（日）】

時 間	気象状況等	本市の体制
18時00分		広島市警戒体制 設置 各区注意体制 設置
21時15分	大雨注意報、暴風警報、波浪警報 発表	

【9月7日（月）】

時 間	気象状況等	本市の体制
11時18分	強風注意報、波浪注意報 発表 大雨注意報、暴風警報、波浪警報 解除	広島市警戒体制 廃止 各区注意体制 廃止
20時21分	強風注意報、波浪注意報 解除	

イ 避難情報の発令状況

【9月6日（日）】

時 間	区	情報種別	原因	対象区域	解除時間
21時32分	東区、南区、安佐北区、安芸区	注意喚起	大雨	福木、楠那、井原、矢野（幸崎地区含む）	—

ウ 動員の状況（最大動員時の人数）

区 分	総 員	各局・区職員	消防職員
警戒体制	28	28	—

エ 最大避難状況

区 分	総 数	中 区	東 区	南 区	西 区	安佐南区	安佐北区	安 芸 区	佐 伯 区
最大開設施設数	2	-	-	-	1	-	1	-	-
最大避難者数	2	-	-	-	0	-	2	-	-

オ 被害状況等

区 分			総数	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安 芸	佐 伯
人	死者・行方不明者	人									
	負 傷 者	人	1					1			
住 家	全 壊	棟									
	半 壊	棟									
	一 部 破 損	棟									
	床 上 浸 水	棟									
	床 下 浸 水	棟									
非 住 家		棟									
公共建物等		棟	5	1			1	1	2		

※ 公共建物等については、公園等の市有施設の被害を掲載している。

第4章 火 災（消防局提供）

1 火災発生状況

令和2年（2020年）中における火災は214件で、令和元年（2019年）に比べ、41件減少した。

火災種別ごとの件数は、「建物火災」が135件で全体の約63%を占め、次いで「その他の火災」が60件、「車両火災」が14件、「林野火災」が5件となっている。

死傷者については、死者が4人（前年比5人減）、負傷者が44人（前年比5人増）となっている。

行政区別火災発生状況

区 分	火災 件数 (件)	火災種別内訳						焼損面積		損害額 (千円)	死傷者(人)	
		建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	建物 (㎡)	林野 (a)		死者	負傷者
中	34	27	0	1	0	0	6	159	0	35,399	1	6
東	13	8	0	2	0	0	3	0	0	359	0	0
南	21	15	0	3	0	0	3	430	0	54,202	2	8
西	31	21	0	1	0	0	9	31	0	9,029	0	7
安佐南	35	25	1	1	0	0	8	485	3	39,556	0	8
安佐北	43	17	4	3	0	0	19	1,137	8	50,469	1	3
安芸	13	7	0	0	0	0	6	161	0	12,938	0	8
佐伯	24	15	0	3	0	0	6	379	0	20,002	0	4
合 計	214	135	5	14	0	0	60	2,782	11	221,954	4	44
令和元年 合計	255	156	3	22	0	0	74	3,139	56	315,792	9	39
前年比	▲ 41	▲ 21	2	▲ 8	0	0	▲ 14	▲ 357	▲ 45	▲ 93,838	▲ 5	5

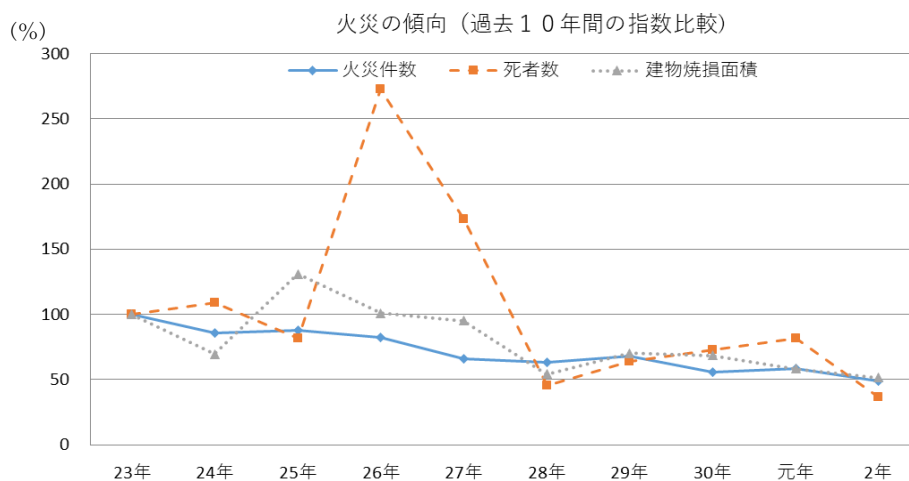
2 1日当たり及び1件当たりの火災概況

区 分		数 値
全火災1日当たり	出火件数	0.6 件
	損害額	60.6 万円
	建物焼損面積	7.6 m ²
	林野焼損面積	0.03 a
全火災1件当たり	損害額	103.7 万円
建物火災1件当たり	損害額	159.6 万円
	焼損面積	20.6 m ²
	焼損棟数	1.3 棟
林野火災1件当たり	損害額	0 万円
	焼損面積	2.2 a
車両火災1件当たり	損害額	31.4 万円
	焼損台数	1.1 台
船舶火災1件当たり	損害額	—
	焼損艘数	—
航空機火災1件当たり	損害額	—
	焼損機数	—
その他の火災1件当たり	損害額	3.5 万円

3 火災件数と死者数の推移（過去10年間）

区 分	平成23年(2011年)	令和2年(2020年)
出火件数	437 件	214 件
建物焼損面積	5,398 m ²	2,782 m ²
死者数	11 人	4 人

平成23年(2011年) = 100%



第5章 ガス災害（消防局提供）

令和2年（2020年）中のガスによる事故発生件数は9件で、令和元年（2019年）の1件よりも8件増加している。

1 ガス事故件数及び死傷者数 (表1)

区 分		都 市 ガ ス						液化石油ガス			計		
		簡 易 ガ ス						件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)	件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)
		件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)	件数 (件)	死者 (人)	負傷者 (人)						
爆発・火災事故								1 (0)		3 (0)	1 (0)		3 (0)
爆発のみで 留まったもの													
漏えい事故		5 (0)						3 (0)		1 (0)	8 (0)		1 (0)
計		5 (0)						4 (0)		4 (0)	9 (0)		4 (0)
令和元年 比較	令和元年計							1 (0)			1 (0)		
	増減							3 (0)		4 (0)	8 (0)		4 (0)

注：この表は、都市ガス及び液化石油ガスに係る爆発・火災事故及び漏えい事故（以下「ガス事故」という。）の件数及び死傷者数について調査したもので、その記載については次による。

- 1 ガス事故の態様の別は次によること。
- (1) 爆発・火災事故：都市ガス又は液化石油ガスが着火物となって生じた爆発・火災事故をいう。
なお、爆発のみで留まったものについては該当欄に再掲。
- (2) 漏えい事故：人的損害を生じ、又はそのまま放置すれば爆発・火災若しくは人的損害を生じるおそれがある都市ガス又は液化石油ガスの漏えいであって、消防機関が出場したもののうち、(1)に該当しないものをいう。
- 2 都市ガスの欄には、ガス事業法第3条及び第37条の2の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスによる事故について記載し、簡易ガスの欄にはガス事業法第37条の2の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスによる事故について再掲。
- 3 死者の欄には、爆発・火災事故は48時間以内に、漏えい事故は初診時において、それぞれ死亡が確認された者の数を記載。
- 4 表中の括弧内には、自損行為に起因する事故について再掲。

2 ガス事故発生場所別被害状況 (表2)

発生場所 ガス種別		ガス 製造 施設	ガス 導 管	容 器 に よ る 搬	消 費 先							計
					住 宅	旅 館	飲 食 店	学 校 ・ 病 院	工 場	そ 事 の 業 他 所 の 等	小 計	
都 市 ガ ス	件 数 (件)		2 (0)		2 (0)					1 (0)	3 (0)	5 (0)
	死 者 (人)											
	負 傷 者 (人)											
液 化 石 油 ガ ス	件 数 (件)				2 (0)				1 (1)	1 (0)	4 (0)	4 (1)
	死 者 (人)											
	負 傷 者 (人)				1 (0)				3 (3)		4 (3)	4 (3)

注：この表は、ガス事故の発生場所別の被害状況を調査したもので、その記載については、表1の注：1～3によるほか次による。

- 1 ガス製造施設の欄には、ガス事業者の敷地内にある施設又は液化石油ガスの製造業者若しくは販売業者の敷地内にある施設における事故について記載。
- 2 ガス導管の欄には、ガス導管又はガス供給管部分で発生した事故のうち、注：4に該当しないものについて記載。
- 3 容器による運搬の欄には、液化石油ガスを容器により運搬していた際に発生した事故について記載。
- 4 消費先の欄には、次の場所において発生した事故について、それぞれ該当する区分の欄に記載。
- (1) 都市ガス：建物内のガス導管からガス器具まで。(2) 液化石油ガス：ボンベ等が消費先敷地内に設置されている場合にあっては当該ボンベ等からガス器具まで、それ以外の場合にあっては当該建物内のガス導管からガス器具まで。
- 5 表中の括弧内には、爆発・火災に係る被害について再掲。

3 消費先におけるガス事故発生原因別件数

(表 3)
(件)

事故原因の別		ガス種類		液化石油ガス	小 計
		都市ガス	簡易ガス		
ガス事業者・工事業者に係る原因	ガス器具の欠陥によるもの				
	工事不良・維持管理不良によるもの	1 (0)		1 (0)	2 (0)
	ガスの漏えい・発見後の不適切な処理によるもの				
消費者に係る原因	コックの誤操作・火の立ち消え等による生ガスの放出によるもの				
	器具・ホースの取扱・管理不良によるもの	3 (0)		3 (1)	6 (1)
	ガスの漏えい・発見後の不適切な処理によるもの				
	自損行為によるもの				
その他	いたずら等故意によるもの				
	不明・その他	1 (0)			1 (0)
計		5 (0)		4 (1)	9 (1)

注：この表は、消費先（表2の注：4による。）におけるガス事故の主要原因と考えられるものについて、その件数を調査したもので、記載については、表1の注：1及び2によるほか次による。

1 原因が重複して考えられるものは、主たるものについてのみ計上。

2 表中の括弧内には、爆発・火災に係る件数を再掲。

第6章 危険物災害（消防局提供）

令和2年（2020年）中の危険物に係る事故は16件発生しており、令和元年（2019年）の15件から1件増加している。事故種別では、製造所等の火災が1件、火災に至らなかった製造所等の事故が15件である。危険物施設別では、地下タンク貯蔵所1件、移動タンク貯蔵所2件、給油取扱所11件、一般取扱所1件、その他1件となっている。

（件）

区 分		合 計	危険物施設別（許可）											その他（届出）
			小 計	製 造 所	屋 内 貯 蔵 所	貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所 タンク	地下 貯 蔵 所 タンク	移 動 貯 蔵 所 タンク	給 油 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所	そ の 他 の 危 険 物 施 設	
製 造 所 等 の 火 災		1	1									1		
火災に至らなかった 製 造 所 等 の 事 故		15	14					1	2	11				1
無 許 可 施 設 の 火 災														
火災に至らなかった 無 許 可 施 設 の 事 故														
危険物運搬中の火災														
危 険 物 運 搬 中 の 漏 え い 事 故														
合 計		16	15					1	2	11		1		1
令和元年 比較	令和元年計	15	13						1	11		1		2
	増減	+1	+2					+1	+1	±0		±0		-1

【参考 1】救急活動

令和 2 年（2020 年）中の救急自動車等による出動件数は 52,095 件で、令和元年（2019 年）の 57,277 件と比べ 5,182 件減少している。この出動件数は 1 日に約 142.7 件、約 10 分に 1 件出動している。

出動件数は行政区では、中区の 9,175 件が最も多く、次いで安佐南区の 8,342 件、西区の 8,067 件の順となっている。事故種別では、「急病」が 33,096 件で最も多く、全出動件数の約 63.5% を占め、次いで「一般負傷」、「転院搬送」の順となっている。

1 出動件数

(単位:件)

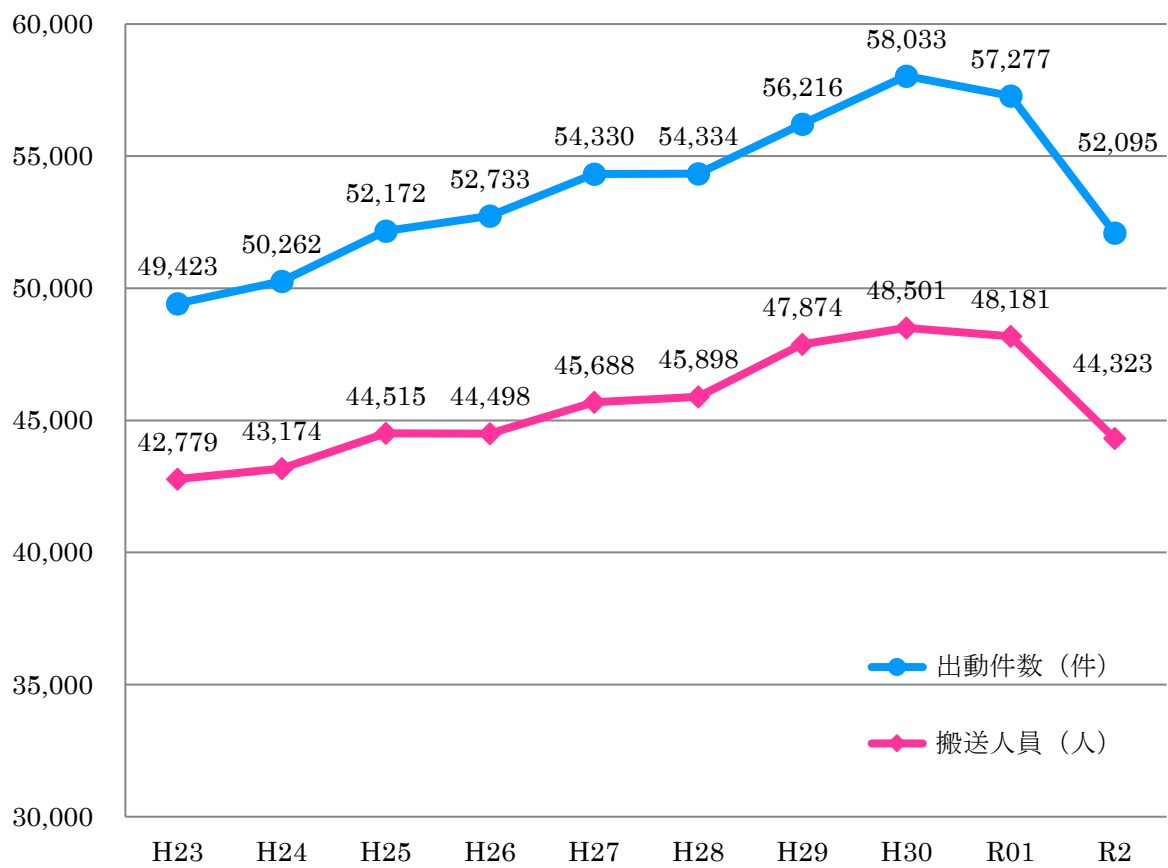
行政区	総計	事故種別											
		急病	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	加害	火災	水難	自然災害	転院搬送	その他
中	9,175	5,790	1,396	647	93	50	17	92	22	4	0	875	189
東	5,319	3,609	873	325	44	18	11	17	3	1	0	352	66
南	7,375	4,607	1,180	545	72	50	44	27	14	9	1	690	136
西	8,067	5,228	1,268	719	75	51	49	24	13	8	0	476	156
安佐南	8,342	5,167	1,341	630	82	52	28	24	16	2	1	875	124
安佐北	5,650	3,597	923	374	61	50	25	26	9	2	0	505	78
安芸	2,868	1,859	456	223	19	28	4	11	9	3	0	209	47
佐伯	5,299	3,239	919	368	47	47	18	15	5	1	0	578	62
総計	52,095	33,096	8,356	3,831	493	346	196	236	91	30	2	4,560	858
1日あたり	142.7	90.7	22.9	10.5	1.4	0.9	0.5	0.6	0.2	0.1	0.0	12.5	2.4
令和元年総計	57,277	36,814	8,581	4,408	432	382	286	269	123	28	0	4,976	978
1日あたり	156.9	100.9	23.5	12.1	1.2	1.0	0.8	0.7	0.3	0.1	0.0	13.6	2.7
前年比増減	▲ 5,182	▲ 3,718	▲ 225	▲ 577	61	▲ 36	▲ 90	▲ 33	▲ 32	2	2	▲ 416	▲ 120

2 搬送人員数

(単位:人)

行政区	総計	事故種別											
		急病	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	加害	火災	水難	自然災害	転院搬送	その他
中	7,320	4,567	1,198	495	61	48	16	60	2	4	0	866	3
東	4,629	3,140	799	275	30	15	10	12	0	1	0	347	0
南	5,979	3,738	974	431	47	47	42	16	9	2	1	670	2
西	6,947	4,536	1,133	622	52	50	49	19	5	3	0	472	6
安佐南	7,305	4,621	1,173	490	48	49	27	16	6	1	1	868	5
安佐北	5,055	3,271	849	295	40	46	23	13	2	2	0	502	12
安芸	2,450	1,610	402	171	15	28	4	8	5	0	0	206	1
佐伯	4,638	2,830	813	311	35	46	17	12	3	0	0	571	0
総計	44,323	28,313	7,341	3,090	328	329	188	156	32	13	2	4,502	29
1日あたり	121.4	77.6	20.1	8.5	0.9	0.9	0.5	0.4	0.1	0.0	0.0	12.3	0.1
令和元年総計	48,181	31,124	7,460	3,497	287	371	277	167	32	5	0	4,917	44
1日あたり	132.0	85.3	20.4	9.6	0.8	1.0	0.8	0.5	0.1	0.0	0.0	13.5	0.1
前年比増減	▲ 3,858	▲ 2,811	▲ 119	▲ 407	41	▲ 42	▲ 89	▲ 11	0	8	2	▲ 415	▲ 15

3 出動件数及び搬送人員数の推移（過去１０年間）



【参考 2】 救助活動

令和 2 年（2020年）の救助件数は818件で、令和元年（2019年）の846件と比べ28件の減少となっている。

また、事故種別では「建物等による事故」が276件と全体の約34%を占めて最も多くなっており、次いで「その他の事故」が271件、「火災」が129件、「交通事故」が103件となっている。

区 分		総 計	火 災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機械に よる 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	爆発 事故	その他 の事故
			建物	建物 以外								
救助件数（件）		818 (436)	109 (20)	20 —	103 (40)	30 (22)	— —	7 (3)	276 (215)	2 (2)	— —	271 (134)
屋 内	小 計	512 (286)	108 (20)	— —	— —	— —	— —	7 (3)	267 (207)	— —	— —	130 (56)
	住 居	442 (263)	70 (13)	— —	— —	— —	— —	— —	251 (195)	— —	— —	121 (55)
	その他	70 (23)	38 (7)	— —	— —	— —	— —	7 (3)	16 (12)	— —	— —	9 (1)
屋 外	小 計	263 (136)	— —	20 —	102 (39)	30 (22)	— —	— —	9 (8)	2 (2)	— —	100 (65)
	道 路	高速道	5 (2)	— —	5 (2)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
		その他	89 (33)	— —	1 (29)	80 —	— —	— —	— —	— —	— —	8 (4)
	水 面	内水面	25 (21)	— —	1 (1)	20 (17)	— —	— —	— —	— —	— —	4 (3)
		外水面	8 (5)	— —	— —	8 (5)	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	山 岳	19 (15)	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	18 (15)
	その他	117 (60)	— —	18 —	16 (7)	2 —	— —	— —	9 (8)	2 (2)	— —	70 (43)
	地 下	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
救助人員（人）		322	3	—	41	22	—	3	162	1	—	90
前 年 比 較	令和 2 年 救助件数 (件)	818 (436)	109 (20)	20 —	103 (40)	30 (22)	— —	7 (3)	276 (215)	2 (2)	— —	271 (134)
	令和元年 救助件数 (件)	846 (476)	94 (42)	18 (8)	123 (49)	34 (26)	1 —	8 (3)	327 (251)	10 (1)	— —	231 (96)
	増 減	▲28 (▲40)	15 (▲22)	2 (▲8)	▲20 (▲9)	▲4 (▲4)	▲1 —	▲1 —	▲51 (▲36)	▲8 (1)	— —	40 (38)

【備考】

- ・下段（ ）内の数値は活動件数を示し、内数である。
- ・令和 2 年の件数は速報値であり、確定値と異なる場合がある。

令和 2 年（2020 年）災害のまとめ

災 害 別	被 害 区 分		単 位	数 値
地 震	死 傷 者	死 者	人	—
		負 傷 者	人	—
	家 屋	全 壊	棟	—
		半 壊	棟	—
		一 部 破 損	棟	—
風 水 害	死 傷 者	死者・行方不明者	人	—
		負 傷 者	人	3
	家 屋	全 壊	棟	—
		半 壊	棟	—
		一 部 破 損	棟	—
		床 上 浸 水	棟	—
		床 下 浸 水	棟	2
	山 ・ が け 崩 れ		箇所	2 1
火 災	発 生 件 数		件	2 1 4
	焼損面積	建 物	m ²	2, 7 8 2
		林 野	a	1 1
	損 害 額		千円	2 2 1, 9 5 4
	死 傷 者	死 者	人	4
		負 傷 者	人	4 4
ガ ス 災 害	発 生 件 数		件	9
	死傷者（自損行為を除く）	死 者	人	—
		負 傷 者	人	4
	火 災 件 数		件	1
	爆 発		件	—
	漏 え い 事 故		件	8
危険物災害 (危険物施設（許可）に限る。)	発 生 件 数		件	1 6
	火 災 件 数		件	1
	流 出 等 の 事 故		件	1 5

防 災 カ レ ン ダー

1 月 1 7 日	防災とボランティアの日
3 月 1 日～ 7 日	火災予防運動（春季）
3 月 7 日	消防記念日
3 月 2 3 日	世界気象の日
5 月（北海道は 6 月）	水防月間
6 月 1 日	気象記念日
6 月 1 日～ 3 0 日	土砂災害防止月間
6 月 1 日～ 7 日	がけ崩れ防災週間
7 月 1 日	国民安全の日
9 月 1 日	防災の日
8 月 3 0 日～ 9 月 5 日	防災週間
9 月 9 日	救急の日
1 0 月 1 3 日	国際防災の日
1 1 月 5 日	津波防災の日、世界津波の日
1 1 月 9 日	1 1 9 番の日
1 1 月 9 日～ 1 5 日	火災予防週間（秋季）

令和 3 年（2021 年） 3 月

編集発行 広島市危機管理室災害予防課

〒730-8586

広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号

TEL (082) 504-2664（直通）